

佳作

父の仕事

更別村立更別中央中学校 3年

松村 真心

私の父は林業関係の仕事をしている。普段は畑に入って苗を育てている。だが、近年ではモンゴルに行くようになった。林業関係とモンゴルはどのようなつながりがあるのかと不思議に思った。父に聞いてみると、

「モンゴルは砂漠地域で遊牧人が多いから木の植え方を知らないんだよ。」

と言っていた。私は、「え、木を植えることなら真心にでもできるよ。」

と率直な意見を言った。すると、父は笑っていた。

「植えることができても、かれてしまったら意味がないから教えるんだよ。」

と。私は、種や苗を植えて水をあげればだいたい育つと思っていた。だが、モンゴルと日本では環境が違うのだ。

私は、あたりまえと思っていたことが恥かしかった。日本のように、良い土があり環境が整っている国は数少ないだろう。モンゴルや他の砂漠地域の国々は、いろんな苦勞をして木を育てようとしている。その反面、日本は技術を持ちながらも、木を伐採して土地を増やしている。このままでは、外国の人からの信頼がなくなってしまうのではないかと私は思う。

私の父は、毎晩毎晩木について勉強している。父は、

「まだまだ勉強しないと。」

と言っていたのは、自分のためよりも他の国のためだと言うことがよくわかった。環境や言語が違うため、いろいろな資料を手にとり必死になって勉強している父は、とてもかっこいいと思う。私も、父のように他の国の人に役に立ちたい。少しのことでも、協力したいと思う。1人で海外に行って仕事をするのは不安だが、青年海外協力隊に加入して、仲間と仕事をしてみたいと思う。そして、父のように誰かの役に立ちたい。